

記入例②

様式第1号(第5条関係)

令和〇年△月□日

あて先 笠間市長

(団体・グループ名)

稲田石イノベーション研究会

(代表者名) 市民活地 ⑩

令和〇年度笠間市まちづくり市民活動助成事業希望調書

笠間市まちづくり市民活動助成金の交付を希望したいので、笠間市まちづくり市民活動助成金交付要綱第5条に基づき関係書類を添えて申請します。

1 助成を希望する事業 ※該当項目に☑

☐ 自立促進事業

☒ 地域活性化事業 (3ヵ年事業)

2 事業名 『稲田御影石の廃材を利用した花壇づくり事業』

3 事業費総額 『1,000,000 円』

内訳 (1年目 300,000 円、2年目 400,000 円、3年目 300,000 円)

4 助成希望総額 『600,000 円』

内訳 (1年目 200,000 円、2年目 250,000 円、3年目 150,000 円)

5 添付書類

(1) 実施計画書 (別紙 1-1)

(2) 収支予算書 (別紙 1-2)

(3) 団体説明書 (①規約・会則 ②構成員名簿 など)

(4) 参考資料 (活動写真、会報等活動内容が分かるもの)

6 連絡責任者

役 職 ・ 氏 名	書記 活動 次郎
住 所 (文 書 郵 送 先)	〒309-1700 笠間市美原五丁目 4 番 4 号
メ ー ル ア ド レ ス	jiro.k@city.kasama.lg.jp
電 話 (携 帯 電 話) ・ F A X 等	TEL090-1111-3333 FAX0296-11-3333

事業名 稲田御影石の廃材を利用した花壇づくり事業

(別紙1-1)

笠間市まちづくり市民活動助成事業 実施計画書

1 団体・グループの説明

ふりがな 名称	いなだしいのべーしょんけんきゅうかい 稲田石イノベーション研究会		
ふりがな 代表者	しみん かつじ 市民 活地	設立年	平成17年 会員数 10名
所在地	〒309-1700 笠間市中央三丁目2番1号		
連絡先	TEL : 0296 (11) 7777 FAX : 0296 (11) 8888		
	Mail: masakano@city.kasama.lg.jp HP : http://www.masakanokasama.co.jp		
〈団体の沿革及びこれまでの活動内容など〉 稲田石イノベーション研究会は、平成17年設立から稲田駅前の清掃活動や景観改善に向けた取り組みを続けている企業集団であり、笠間市の地場産業である稲田御影石の新たな利用方法を考える会です。御影石の特性や性質を分析し、新たな分野における使い方の提案などを行い、地域活性化を目指して活動をしています。			

2 単年度事業計画（初年度に取り組もうとする活動内容）

事業内容 【公益性・地域貢献】	〈どのような事業なのか〉 稲田御影石の天然材料の良さを再認識していただくために、大学生や企業とタイアップし、御影石の新たな活用方法などを研究するために協議会等を立ち上げる。 協議会等の設立後に具体的な実施計画を作成するためにプロジェクト会議を開催し、次年度からの実施に向けた体制を整える。
	〈対象者／何を対象としているのか〉 衰退しつつある地場産業の復活と地域コミュニティの創出等 幹事：稲田石事業者、市民活動団体、企業、行政 協力：地域住民、大学・高校、一般ボランティア など

	〈現状の課題とは〉 従来から建築材料等として利用されてきた御影石ですが、建築様式の多様化や海外からの安価な材料により需要が減っている現状がある。また近年、コミュニティ活動の衰退や人の心の豊かさを求める声が高まりつつある。 〈課題を解決するための改善方法や具体的目標など〉 地場産業の稲田石を使った花壇づくりをすることにより、古くから身近にあった建材を使用し、地場産業の再認識と、花いっぱい運動を通じて、まちづくりについて考える機会を創出するとともに、みんなで話し合う楽しさや合意形成の過程を楽しんでもらい、まちづくりを身近に感じていただけるよう進めていきたい。
--	--

※「いつ・どこで・何を・どのように」実施するのかを具体的に記入してください。

事業計画・スケジュール【実現性・公平性】	〈準備から事業終了までのスケジュール〉 4月 素案の作成 5月 関係団体への呼びかけ、プロジェクト会議 6月 候補地等の権利者等の協議 ↓ 9月 プロジェクト協力者募集 10月 ワークショップの開催、実施設計 11月 花いっぱい計画 1月 管理運営方針の決定、土作り 2月 翌年度の計画作成 3月 役員会・総会 〈参加予定人数やスタッフ人数、役割分担など〉 当研究会を中心に協議会等を設立する。【概ね20名程度】 スケジュール・内容が決定し、広く呼びかけボランティアスタッフを募集する。
----------------------	---

事業名 稲田御影石の廃材を利用した花壇づくり事業

	概ね 100 名程度を目標とする。
	〈人数把握方法〉 ※不特定多数参加の場合（いずれかに☑） ☐ 事前申込数から推測 ☐ チケット数等で把握 ☐ 駐車場台数から推測 ☐ 一定の面積の最盛時の利用者×回転数×全体の面積÷一定面積 ☒ その他（会員と募集したボランティアスタッフであるため参加人数は把握）
期待される効果【継続性・発展性】	〈どのような効果があるか、具体的に〉 初年度は、花壇づくりを通じて御影石に触れ合うことにより、地場産業の理解を深めることができる。また、多くの方に参加していただくことにより、ネットワークが広くなり新たなコミュニティが形成されることが期待される。 〈今後の展望や展開／自己財源を確保するための工夫など〉 自己財源確保においては、花の販売や寄附を募り、自己財源を確保する。また、新たな商品開発にも力を注ぐことで自立を目指す。 稲田（御影）石に触れていただく機会を増やし、地域の方々の身近に使用していただくために御影石の魅力を伝えていきたい。

3 長期事業計画（3ヵ年事業計画）

概要	〈全体の事業計画〉 稲田御影石の天然材料の良さを再認識していただくと共に、花いっぱい運動を通じて景観や環境の改善、地域住民の交流や犯罪防止に努め、明るい街づくりを目指す。		
事業計画	1 年目	2 年目	3 年目
	〈計画案／実績〉 稲田石の事業者を中心に市民活動団体・企業・行政等の関係機関と調整し、材料や人員の確保、設置場所の選定等を行い計画書を作成する。	〈計画案／実績〉 実際に花を植え、育てる。地域住民や大学生などを交えてワークショップ開催し、季節の花木を選定し、年間スケジュールを決定する。	〈計画案／実績〉 花壇事業がひと通り軌道に乗ったら、稲田石のサインやモニュメントなどを設置していく。

事業名 稲田御影石の廃材を利用した花壇づくり事業

	〈目標値／達成率〉 月1回程度の会議を開催し、実施に向け協議を進め、花壇の設計等も遂行する。 〈問題点／効果〉 誰が花壇を管理していくのか、持続するためにどう財源を確保するのかが大きな問題となる。	〈目標値／達成率〉 より多くの方に関わってもらい、花壇を中心として良好なコミュニティの形成をめざす。 〈問題点／効果〉 花は、管理や天候に左右されるために、花の知識を蓄え、如何にして持続可能なものにしていくかが問題である。	〈目標値／達成率〉 寄付者や花の寄贈者の氏名を稲田石に刻み込み、掲示する。 〈問題点／効果〉 持続可能なものになった場合、花いっぱい運動によって、地域力が高まり、良好なコミュニティ活動の展開が期待できる。
--	--	---	--

	1 年 目	2 年 目	3 年 目
予算額	総事業費 300 千円	総事業費 400 千円	総事業費 300千円
	(財源内訳) 助成金 200 千円 自己財源 100 千円 その他 0 千円	(財源内訳) 助成金 250 千円 自己財源 150 千円 その他 0 千円	(財源内訳) 助成金 150 千円 自己財源 150 千円 その他 0 千円
4 年 目 以 降 の 展 望	笠間市の各地区に、本事業を広げ、それぞれの地区のコミュニティ活動の活性化のために、コーディネーターとなれるような存在となりたい。 併せて、稲田石の需要喚起につなげられるようPR活動も展開していきたい。		

(別紙1ー2)

団体・グループ名	稲田石イノベーション研究会
----------	---------------

初年度の収支予算書

1 収入内訳 (単位：円)

項目	金額
笠間市まちづくり市民活動助成金	200,000
団体・グループの自己資金	100,000
事業収入 ()	
その他 ()	
合 計	300,000

2 支出内訳 (単位：円)

項目	予算額	内助成金額	内容・積算根拠
報 償 費			
旅 費	20,000		先進地視察交通費
需 用 費	60,000		事務用品一式 30,000円、燃料代10,000円 紙・インク等の消耗品代 20,000円
委 託 料			
使用(賃借)料	10,000	10,000	会議室
原 材 料 費			
備 品 購 入 費	90,000	90,000	パソコン 90,000円
その他の経費	120,000	100,000	広告料・保険料
対 象 外 経 費			
合 計	300,000	200,000	

※ 団体・グループの予算書があれば添付してください。

※ 営利事業を含む場合や助成金の利用先が明確な場合は「内助成金額」に金額を記載してください。